



37期 2年生 東北修学旅行報告 第一学年 修学旅行担当

10月22日(日)〜10月25日(水)、2年生346名と付き添い教員14名は東北修学旅行に行つてきました。出発前から台風21号の影響が心配されましたが、伊丹空港から仙台空港への約1時間30分のフライトは、思っていたほど揺れることもなく快適でした。

仙台空港到着後、クラスごとに分かれて震災学習を行う被災地へと向かいました。道中、牛タンやずんだもち等、宮城県の郷土料理が入った「引きだし御膳」弁当をいただきました。

【被災地での震災学習】

震災学習を行った被災地は、2・4・7組が気仙沼市、6・8組が石巻市、1・5組が亘理町、3・9組が山元町です。各地域にて、語り部にバスに乗車していただき、お話を聞きながら被災地を巡りました。

気仙沼市のキャッチフレーズは「海と生きる」です。津波や沿岸火災で被害を受けた後でも、漁業を再開し、市民は「海と生きる」ことを選択しました。しかし、高さ約7メートルもの防潮堤に対して、海と遮断され、「景観が白無し」「海が見えず逆に危険だ」という市民の反対意見があることを、語り部を通して知りました。石巻市は「がんばろう！石巻」をキャッチフレーズに復興が進んでいました。しかし、郊外はまだまだ更地の所が多く、復興の地域差が大きかったです。語り部が強調していたのは、「集団に流されず、自分の身は自分で守る」ということでした。「大勢の人があつちへ向かっているからといって、自分で何も考えずついていってはいけません。冷静に自分で判断することが大切」と話してくれました。「もうこんな悲しい思いをしてほしくない」と、当時のありのままの状況と生き残る術を教えてくださいました。

亘理町は昔から津波がきても大きな被害がなかったのですが、町民の多くは東日本大震災の際もすぐに逃げなくても大丈夫だと思つたそうです。また、津波が到達するまで時間がかつたこともあり、家に荷物を取りに戻つたり、海の様子

を見に行つたりして、避難が間に合わなかった方が多かつたそうです。「状況が毎回同じとは限らない。油断してはいけません」ということを、語り部は強調していました。震災を経験した人の言葉は、非常に重く、生徒たちも真剣に聞いていました。

山元町では、ある小学校を訪れました。そこは校舎2階の天井まで届く12メートルもの津波がきましたが、児童・教員全員が屋根裏部屋へ避難して、生還することができた「奇跡の小学校」と呼ばれています。校舎の周りから中を見ると、大きな流木、腐食した勉強机や椅子、ひしゃげた鉄筋がむき出しの天井などが、目に飛び込んできました。見慣れた学校の悲惨な姿に、生徒たちは津波の恐ろしさを強く感じていました。この小学校は今後も震災遺構として残されます。



震災から6年経つた被災地を訪れ、メディアでは報道しきれない現状、被災者の声、復興への取り組みを知りました。この震災学習で学んだことは、今後も取り組んでいく「防災」「減災」学習に活かされていきます。

【民泊体験】

震災学習の後には、広大な田園風景が広がり、北上川や原生林などの豊かな自然に囲まれた奥州市で、2泊の民泊体験です。受け入れ家族の方と顔を合わせた時は、皆緊張した表情をしていましたが、2日目に教員が様子を見に行つた時にはすっかりリラックスして過ごしていました。2日目の午前で台風は通過し、午後からは晴れ間も見え、ハウスでの種まき、栗拾いや芋掘り、リース作り、がんづき(蒸しパン)やうどん作り、薪割り、家畜のお世話など、各家庭でさまざまな体験をしていました。白米

「ひとめぼれ」や畑で採れた野菜、地元ブランドの牛肉、東北の林檎などを食べさせてくださった家庭が多いよ



うで、多くの生徒が嬉々として「ごはんがほんまに美味しい！」と言っていました。3日目の朝は、笑顔あり、涙ありのお別れでした。ぜひ、また東北を訪れてお世話になった家族に会いに行つてほしいです。バスから姿が見えなくなるまで手を振っている生徒が多かつたです。

【平泉観光・安比高原体験学習】

その後、一行は世界遺産、平泉・中尊寺に向かいました。修学旅行直前に古典の授業で学んだ『奥の細道・平泉』の舞台を、実際に自分の目で確認できるという貴重な経験ができたと思います。ガイドの説明を聞きながら本堂・金色堂を参拝し、芭蕉の足跡を辿り、東北の文化を肌身で感じました。

3日目の午後は安比高原に向かい、昼食でパスタとカレーライスをいただきました。食後は14のプログラムに分かれて体験学習をしました。色づいた木々が美しい自然に囲まれ、マウンテンバイクやブナの森探検、漆器体験、ハーブソープ作りなどを行いました。ピザ作りや蕎麦打ちを選んでいた生徒は、昼食の後にまた「ごはんを食べる少し苦しいのでした。民泊先でもたくさん走った後ホテルでの晩御飯もあつたので、さらにお腹いっぱいになっていました。」



【ホテル宿泊・全体レクリエーション】

3泊目の夜は八幡平グランドホテルで宿泊です。全体レクリエーションでは、ダンス部や有志の生徒がダンスを披露してくれました。漫才はクオリティが高く、大爆笑が起きる場面もありました。イントロクイズなどのゲームはクラス対抗で競い合いました。司会と修学旅行委員の運営のもと、非常に盛り上がった全体レクリエーションでした。



【小岩井農場・松島高校生との交流】

最終日は午前中に小岩井農場を訪れました。広大な芝生の広場で、バレーボールや「だるまさんが転んだ」、乗馬、シーソー、お土産購入など各々思い思いに時間を過ごしていました。何よりも多く目にしたのはアイスクリームやジェラートを食べている生徒たちです。超濃厚なミルクの風味が本当に美味しく、「2個目やねん！」という生徒もいました。昼食にはジンギスカンをいただきました。初めてラム肉を食べる生徒も多かつたようですが、クセが少なく、牧場で育つた牛肉もとても美味しかったです。



最後のイベントは松島高校・観光科の生徒との学校交流・松島観光です。「国内で高校生同士が交流するのは初めて見ました」とカメラマンが驚いていました。時間は短かつたのですが、松島高校生の案内で瑞巖寺や園通院を巡り、お土産を買い、日本三景の1つである松島を満喫しました。



仙台空港では宮城県ゆるキャラ・むすび丸がお見送りしてくれました。芥川高校のために来てくれたそうです。2便に分乗し、無事にお家に帰つてくることができました。震災学習では被災地の現状や課題を知り、今後の生活を考えるきっかけになったと思います。また、民家泊、平泉・中尊寺、小岩井、松島から東北の人のあたたかさや文化に触れ、心に残る修学旅行になったのではないかと思います。

